

# 会 議 録

## 1 会議名

令和7年度 第6回大潟区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ・報告事項

（１）上越市大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館条例改正の事前説明について

### ・協議事項（公開）

（１）大潟区の「地域の魅力の向上」及び「まちづくり」について

### ・その他（公開）

## 3 開催日時

令和7年9月18日（木）午後7時00分から午後8時25分まで

## 4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 大会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委 員：小山委員、佐野委員、新保委員、竹田委員、土屋会長、俵木副会長、横田委員

（14名中7名出席）

・観光振興課：新井課長、小関係長

・柿崎区総合事務所：荻谷産業グループ長、山岸班長

・事務局：大潟区総合事務所 小池所長、池田次長（総務・地域振興グループ長兼務）

新保市民生活・福祉グループ長、風間班長、水澤主任

## 8 発言の内容（要旨）

### 【池田次長】

・会議の開会を宣言

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【土屋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：小山委員に依頼

【土屋会長】

報告事項（1）上越市大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の条例改正の事前説明についての報告を行う。観光振興課から説明を願う。

【新井課長】

事前説明資料により説明。

【土屋会長】

質問、意見はあるか。

【佐野委員】

現在、日帰り温浴施設が少なくなっている。柿崎区のマリンホテルハマナスは宿泊施設であるが、日帰り入浴も対応しているのか。

【新井課長】

午前11時から午後4時まで日帰り入浴をやっている。午後4時までは早いという意見もある。柿崎区地域協議会で説明したが、終了時間を午後7時までに改正しようと思っている。

【佐野委員】

日帰り入浴を午後7時までにすると宿泊客と重なり混みあうのではないかと心配している。また、鵜の浜人魚館の休館日を水曜日にするとのことであるが、マリンホテルハマナスの休館日は何曜日か。

【新井課長】

水曜日である。

【佐野委員】

マリンホテルハマナスと鵜の浜人魚館の休館日が重なることになるが、そこについての検討されているのか。

【小関係長】

マリンホテルハマナスは開設時間が短いため別に考える。頸北地区の温浴施設を考えたときに、ゆったりの郷はハッピーマンデーがあると休館日が月曜日から火曜日にずれる。そうすると、火曜日は頸北地区で温浴施設が開いていないということが起きている。また、ゆったりの郷は月曜日休館で、メンテナンスがあると月曜日、火曜日休館ということがある。鵜の浜人魚館を水曜日休館にすることによって、月曜日、火曜日は鵜の浜人魚館が開館している、水曜日はゆったりの郷が開館しているという体制をとりたい。プールについては、柿崎区のプールは火曜日が休館日で鵜の浜人魚館と被っている。そういったこととも考えて鵜の浜人魚館の休館日を水曜日にしたい。

【佐野委員】

客の立場からすると水曜日はノー残業デーが定着してきており、休館日になると入込数が少なくなることが懸念される。曜日に対しての入館者数の影響どのように考えているか。

【新井課長】

指定管理者が動向を把握している。1つの施設だけで考えるのではなく全体で考える。各施設の場所が近いこともあり、そこは対処できると考え水曜日が適切であるとなった。

【佐野委員】

利用時間について、冬は忘新年会等があるが午後8時で閉館となると切り上げるのが早すぎるのではないかと思うが、それについても支障がないということでよいか。地元の利用者からは、「冬は閉館時間が早い。もう30分でも閉館時間を遅くしてもらえるとゆっくり入れる。」という声を多く聞く。

【新井課長】

閉館時間を8時にすると入館はその30分前までにしていただくことになる。ご意見はよく分かる。そういった声がある一方で、経営のことを考えるとこのような形でお願いしたい。

【佐野委員】

統計上は夕方よりも日中の方が入込数は多いということか。

【新井課長】

そうである。あとは休日の利用が多い。

【佐野委員】

土日でも午後7時30分までに入館してもらうということになるのか。

【新井課長】

そのように考えている。もちろん、閉館時間を遅くしてほしいという声が大きくなったり、夜間の利用が増えれば、そのときに指定管理者の集計した情報を基に条例を見直すことはあり得る。観光振興課は大勢のお客さんに楽しんでもらい、指定管理者が効率的に経営できるようにという立場の部署である。そうなったときにはいろいろな方の声を聞いて、より適切にという考えである。

【佐野委員】

どこまで人件費を抑えていけるか。

【新井課長】

10年、20年前から人口減少、人手不足という話はあったが、いよいよその時間帯までスタッフを確保するのが大変という実態もある。

【佐野委員】

プールは午前中や夕方以降の利用が少ないということか。

【新井課長】

仕事帰りにトレーニングで利用する人がいてもいいような気がするが、やはり全体の利用者に対して水を温めるプールを維持するのは難しいというのが実態である。

【佐野委員】

最近の状況は分からないが、以前は平日夜間に健康教室をプールで実施して集客につなげていくというやり方もあった。午後6時までとなるとそういった教室もできない。

【新井課長】

子ども向けの教室はこの時間帯の中で終ると思う。その後の時間帯も何人かの方からは利用したいという希望があるかもしれないが、そこで2時間くらいボイラーや水道を使うことに対しての判断であった。

【佐野委員】

永久的にこの時間帯になるわけではないので、利用者の声を十分に反映していただきたい。利用者あつての施設である。合併前上越にある温浴施設は夕方からの利用者がかなり多い。そういうところは大事にする必要がある。

【新井課長】

合併前上越にある施設は平日の仕事帰りに寄っていくという方がいるが、大潟、吉川の施設になると地域の方が中心になる。そこに経営の難しさがある。

【横田委員】

以前、プールで午前中にシニアの教室はなかったか。私の母が通っていた。シニアの教室は午前中のほうがやりやすいと思う。午前中を全て廃止にするのではなく、曜日を決めて臨機応変にできないものか。

【新井課長】

以前はやっていたと思う。しかし、午前中は家の用事を済ませて午後から活動するということがあったのかと思う。

【横田委員】

午後は教室をやっているのか。

【新井課長】

午後はやっている。

【横田委員】

プールと風呂のセット料金があるので、風呂と同じ時間帯にしてもらいたいと思う。人件費に関してもアルバイト等を集められないか。

【新井課長】

アルバイトはなかなか集まらない。

【横田委員】

高校生とかはやりそうである。

【新井課長】

そういう時期はあるかもしれないが、今はスキマバイトのような形でなんとか人を確保していると聞いている。安心安全のことを考えると場当たりに人を置くのではなく、設備のことも多少分かったといったノウハウがある人、何かあったときに対応できるような人が必要である。そういった難しさもある。現在の条例に比べると開設時間が短くなるが、いろいろな条件を考えた中での経営の苦しさがある。

【竹田委員】

鵜の浜人魚館のホームページで健康教室第3期、第4期の参加者を募集している。今

年度の健康教室は開催されるが、条例が改正されれば無くなる教室もあるのではないかな。

【小山委員】

私は、水曜日に健康教室に通っている。昨日その話が少し出て「えっ。」となった。水曜日はランポビクスとヨガの2つの教室がある。月、水、木、金に教室があり、土曜日はシニアの教室がある。その中で一番参加人数が多いのが水曜日である。講師は、月曜日ならできるかもしれないと言っていたが、曜日が変更となった場合に参加者は「通えない。」という人もいるし、「なんとか通える。」という人もいる。今日の説明を聞いたところ、午後8時には終了して帰らなければいけない。今は、教室が午後7時15分から午後8時までで、午後8時から午後9時までに風呂に入って帰ってくることになっている。改正案では冬季の閉館時間が午後8時となっており健康教室の開始時間を早めないといけない。そうすると1人、2人の問題ではなくなってしまう、教室自体の存続も考えた方がいいと思う。

【新井課長】

今の教室は、冬も9時までやっているのか。

【小山委員】

そうである。コロナ禍では鵜の浜人魚館自体は午後8時までの営業であったが、教室に通っている人は午後9時までということでやらせてもらっていた。

【新井課長】

健康教室については別枠という形で運用しているということか。

【小山委員】

そうである。閉館時間に合わせて健康教室の開始が1時間早まると勤めている人は通えなくなる。

【新井課長】

今の話を聞くと健康教室参加者にとっては非常にいい状態になっている。その整理は、条例の中に「市長が認める場合はこの限りではない。」というものがある。実際に今も指定管理者から春に事業計画をもらって事務処理をしているが、それは市長が特別に認めた場合という条例上の規定を運用してやっている。今日、皆さんからご指摘を受けて、私どもも一度整理するが、健康教室については市長が必要と認めるものという規定を運用する中で対応する必要があると考える。利用してもらうのが大事な施設なのに、

条例で排除するようなことは絶対にあってはならないと思う。そこは改めてよく確認させていただく。

【佐野委員】

水曜日の固定客である健康教室の参加者を排除するということは、それだけ売り上げが減るわけである。そこもよく考えた方がいい。水曜日がいいのか、木曜日がいいのか分からないが、そこはもう少し柔軟に閉館日が被らなければいつでもいいのかとも思ったりしている。

【横田委員】

例えば健康教室だけ特別に午後9時まで利用してもいいとなった場合、一般の人がその時間帯に来て、施設は開いているのに帰されるのはよくないと思う。開けるのであれば、この曜日は9時までやっていますとしないと公平性に欠けると思う。

【新井課長】

ご指摘を受けてよかったと思っている。指定管理者との話し合いの中での案を皆さんにご説明したが、実際に利用している方の話が聞けた。持ち帰って次回の諮問のときに再度お示ししたい。場合によっては今日の説明と変更となる部分もあるかもしれない。先ほどの話にあったように、市長が必要と認めるものという運用の中で対応する部分もあるかもしれない。一般の人たちがどう思うかという話もあったので、それを含めて整理させてもらいたい。

【横田委員】

利用者の声はどのように聞くのか。例えば時間を短縮した後に出てきた「利用したかった。」という声はどのように吸い上げるのか。

【新井課長】

運営を任せている指定管理者にお願いすることになると思う。

【横田委員】

営業時間は短い方が管理は楽であり、声を聞かないことにならないか。大丈夫なのか。

【小関係長】

指定管理のルールの中で利用者の声を聞くというものがある。そこはちゃんとやっていただくよう指示できる。アンケートボックスを置おくなどやり方はあると思うが、どのような方法がいいのか。施設に行かないと声を届けられないというのもよくない。や

り方はいろいろあると思う。人魚館サポーターズクラブにお力添えをいただき意見を吸い上げる方法もある。

【佐野委員】

この改正にあたり、パブリックコメントみたいなことをやる予定はあるのか。

【小関係長】

この改正では考えていない。

【俵木副会長】

改正案を作るにあたりヒアリング等をされていると思う。ヒアリング相手として当然鵜の浜人魚館もいると思うが、何人くらいにヒアリングをしたのか。

【新井課長】

社長と支配人である。

【俵木副会長】

社長や支配人が代弁しているかもしれないが、現場のプロパーの人間の話は聞いているのか。私は人魚館サポーターズクラブの事務局をやっており支配人等といろいろな話をする。人的にも経営面でもなかなか厳しく大変である。他の従業員からも色々な話を聞いているが、それがヒアリングのときにきちんと反映されているか気になった。公の施設とはいっても、経費削減をして利用率を上げないといけない。鵜の浜人魚館に行くとプロパーが8人しかいなくて、あとはアルバイトが若干名であり本当に回すのが大変なようである。食堂について、今年のお盆は多くの人から来ていただき、皿洗いの人が足りないと言った。サポーターズクラブに相談があった。高校生のアルバイトを紹介したり、私自身も手伝いに入ったりしたが追いつかない部分があった。食堂の利用時間について、お盆の期間だけは海水浴客の利用も多いため30分でも延ばしていただけるといいと個人的は思う。

【小関係長】

無料開放の時に私も仕事帰りに寄ってみた。その状況を見て午後8時までというのは妥当だと思っている。この夏、無料開放で多くの人がきているのに午後7時半の段階で食堂がどうであったかを私はよく見ている。午後8時30分という意見であったが、私は午後8時が妥当であると思っている。また指定管理者ともよく相談する。その状況をお伝えしたうえで協議させてもらえればと思う。



【土屋会長】

宴会等で何回も利用しているが、夜８時で終わってしまうというのはあまり考えられない。鵜の浜人魚館の方たちが本当にその時間で今までのようにやるのかという気がしている。その確認をお願いしたい。この後、自主的審議事項の協議をするが、まちづくり班にきた意見を紹介する。「主に後期高齢者のフレイル予防を目的とした運動や座学、人との交流の場を是非検討していただきたい。筋力増強、孤独感の解消、認知症予防等、高齢者が生き生きとした生活が送れると考える。先日、他県で実際にフレイル予防を行っている事例が紹介されていた。結果的に市内全体の活性化や医療費の削減に繋がることとなる。ぜひ検討をお願いします。」とのことである。現状だけを考えると改正案でやむなしかもしれないが、もう少し先のまちづくりという意味も踏まえて時間や休館日の検討をお願いしたい。報告事項を終了する。

～観光振興課、柿崎区総合事務所退席～

【土屋会長】

協議事項に入る。協議事項（１）大潟区の「地域の魅力の向上」及び「まちづくり」について、前回に引続きグループ協議を行う。まちづくり班の予備調査としてのアンケートを実施したので、その速報値を事務局から報告してもらう。

【風間班長】

資料No.1により説明。

【土屋会長】

グループ協議の後、どこまで進んだかと次回の予定を発表してもらう。

～グループ協議～

【土屋会長】

代表者から発表願う。

【俵木副会長】

地域の魅力の向上班はアンケートの最終調整を行った。これでアンケートは最終決定

とする。すぐにアンケート調査に入れるかを事務局から確認してもらい実施していきたい。アンケート対象者は、上小船津浜町内会、潟町3区町内会、小学5年生を予定している。小学生については総合の時間を利用して取り組むことができないか小学校と協議する。事務局から内容を確認してもらったら、すぐに配布して10月20日ころを期限として回収したい。アンケートとは別に大潟観光協会、鵜の浜温泉観光組合、くびきの商工会大潟支部などにも意見をいただき、地域協議会の理想的な姿の方策のところに持っていきたいと考えている。アンケート実施から次のステップに移るまでは時間が掛かると思うが進めていきたい。アンケート対象者は、将来的にはキャンプや温泉に来られた方にも依頼し、区外の方の意見も重要視していきたい。情報発信のやり方を今後検討する。

**【横田委員】**

アンケートの中身を見ることはできるのか。

**【俵木副会長】**

今はまだ見られるようになっていない。事務局と相談して見られるようにする。

**【土屋委員】**

まちづくり班は予備調査を行い48件のアンケートが集まった。かなり貴重な意見をいただいている。特にお子さんに関する困りごとの意見があった。今回は予備調査であるため、どこまで具体的にまとめてお返しするか検討が必要である。まずはメールアドレスを記載していただいた方へのフィードバックを考えないといけない。今後、大潟区全体から抽出してアンケートを取るとしたら、出てくる意見を上手くまとめて住民に返していく必要がある。3月までの進め方を各委員が検討して、次回地域協議会で協議し、今後の進め方を決めていく。

質問等がなければ協議事項を終了する。その他に入る。総合事務所からの連絡はあるか。

**【風間班長】**

吉川区の地域協議会だよりやチラシ等を配付してある。ご確認いただきたい。

**【池田次長】**

次回協議会は、10月16日（木）午後7時から大潟コミュニティプラザ2階の大会議室で開催する。

【土屋会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL : 025-534-2111 (内線 201、214)

E-mail : ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。